

「聖霊に送り出されて」 一使徒行伝講解説教 28-

使徒行伝 13章1節～12節

説教 本庄侑子牧師

今日から、教会が海を越えて海外宣教に踏み出す新しい段階に入ります。きっかけは教会の礼拝で皆が祈っていると、聖霊がバルナバとサウロを私のために聖別し、彼らに授けておいた仕事に当たらせなさいと告げたことにありました。バルナバとサウロが個人的に思い立ち、海外に行こうと言ったのではありません。教会で共に礼拝し、祈る中で、聖霊が教会に命じられたのです。具体的な経緯は分かりません。しかし、礼拝と祈りの中で、教会はこのことを聖霊の選びと導きと信じるようになり、教会のわざとして2人を送り出しました。

2人がこれからもここにいて、良い説教、指導や牧会をしてくれた方が嬉しいはずでした。しかし、教会は2人に手を置いて祈り、出発させました。「出発させた」は「解放した」とも訳される言葉です。教会は、主の召しに答えるために、二人を自分たちから解き放ったのです。

教会の喜びは自分たちの満足や自分たちの安定を保つことにあるわけではありません。一人でも多くの人たちが、主イエス・キリストに現された神の愛を知ることができるように祈り、共に荷を負って、主に従っていくことにあります。

2人はたどり着いた先で神の言葉を告げ知らせました。キリストの死と復活によって、この世界のどこにも神の愛が及ばない所はなくなった。死を超えてまでも、あなたは神のもの。神がこの世界を支配してくださっているのだ、と。

あなたは神のもの。神の支配があなたの人生に及んでいる。そう聞くと、自分の意志を奪われ、窮屈な思いをするように感じるかもしれません。誰にも支配されないで自分の考えで生きる人生に憧れます。実際この時、人々は魔術を求めていました。魔術とは、自分の思い通りに生きることを助けてくれる力と言い換えたらいいかもしれません。

魔術的な力は今も様々な形をとって私たちをとりこにします。私を満足させ、私の価値を高めてくれそうなもの。私の願いをかなえるに有利そうなもの。その思いに答えてきた魔術師は、神の言葉に対抗しました。パウロは、「聖霊に満たされ、魔術師をにらみつけて言」いました。聖霊、神ご自身が戦ってくださったのです。魔術師は、たちまち目が見えなくなりました。

パウロもかつて同じ経験をしました。エリート中のエリートとして思い通りに生きていました。しかしある時、イエス・キリストの福音を聞き、自分は神ではないこと、神の愛の支配の中にいることを知って、目が見えなくなりました。正しいことが見えていたと思っていた。でも実は、何も見えていないままにとんでもないことをしてきた。暗闇の中、そう示されました。

しかし、そこで自分の名を呼ぶイエス様の声を聞いたのです。パウロの罪と戦うために十字架にかかり、苦しんで死んでくださり、罪に勝利して復活してくださったイエス様の赦しと招きの声でした。罪ある目には見えなかったこと、神様がパウロに用意してくださっている務めが示された上で、パウロの目は再び開かれました。パウロはこの時、魔術から解放されたのです。自分の価値を高め、自分を大きくするために手に入れ、利用していたものを、神の愛、神の支配を伝えるために用いる人生へと変えられていきました。

一連の出来事を見た総督は、主の教にすっかり驚き、そして信じました。総督の人生も変えられていったことでしょうか。与えられている力、自由、お金、時間を、自分を大きくし、自分の支配力を広げるためではなく、出会う一人一人に、あなたはイエス様が十字架につけられるほどに愛されている存在なんだと証するために用いる、そんな人生へと方向転換させられて行ったことでしょうか。以来、その地域全体に神の愛が満ち溢れていったことと思います。そして忘れてはなりません。このことの背後には、教会の痛みを伴った祈りと献身があったことを。

礼拝は、かつてパウロや魔術師が通った場所。神が私たちと戦ってくださる場所です。今年もレントが始まりました。イエス様の迎られた十字架への道が私たちを魔術の力から解き放ち、新しい命に生かすためであったことを思い起こして過ごしたいと思います。魔術の力から解放されたいと願います。私たちの祈りが新しくされ、教会や、日々の生活で行われている営みが、自分たちの安定をはかるためのものではなく、主の召しに答えるためのものとされますように。

(記 本庄侑子)